

第4回 東海三県小児在宅医療研究会

医療的ケアを要する重度障がい児者が年々増加し、その多くが在宅生活を送るようになっていきます。

東海三県(愛知・岐阜・三重)では、小児在宅医療の充実を目指し、その支援に関わる医療、看護、福祉、教育、行政等関係者が一堂に会し、それぞれの地域における多様な取組みの共有を図り、相互に連携交流ができる関係をつくることを目的に、「第4回東海三県小児在宅医療研究会」を開催いたします。皆さまのご参加をお待ちしております。

テーマ 地域における小児・障がい児者の
在宅支援と今後の展望 ～東海三県の取組み～

日時 平成30年2月10日(土)
13:00～17:00(開場12:30)

場所 じゅうろくプラザ 2階ホール(JR岐阜駅前)

定員

400名様
参加無料

日本小児科学会
新専門医研修単位 申請

プログラム

13:00～13:05 **開会あいさつ**

13:05～13:26 **各県の取組**

座長: 西村 悟子 岐阜大学 障がい児者医療学寄附講座 特任准教授
報告: 三重県・愛知県・岐阜県 行政担当者

13:26～14:26 **基調講演**

座長: 夏目 淳 名古屋大学 障害児(者)医療学寄附講座 教授
講師: 島津 智之 独立行政法人国立病院機構 熊本再春荘病院 小児科医長・認定NPO法人NEXTSTEP 理事長
演題: 小児在宅における多職種協働の取組み

14:35～16:05 **シンポジウム**

座長: 麻生 幸三郎 愛知県心身障害者コロニーこばと学園 園長
岩本 彰太郎 三重大学医学部附属病院 小児トータルケアセンター センター長
山本 崇裕 岐阜大学 障がい児者医療学寄附講座 特任助教

報告

「三重県における小児在宅支援とセラピストの役割と今後の展望～地域と医療の間で学校理学療法士がしてきたことから～」
多田 智美 鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部理学療法学科 助教 (三重県)

「多職種連携と相談支援専門員の役割～今をつなぐ 未来をつくる～」

島 優子 社会福祉法人愛恵会 相談支援事業所こだま 管理者 (三重県)

「重症児向け医療・福祉資源マップの整備をめざして～在宅移行早期の暗黒期に道を照らす～」

浅井 隼人 星ヶ丘マタニティ病院小児科 訪問診療医 (愛知県)

「医療ケアを必要とする子どもたちと家族への外出支援」

神田 雄生 柵訪問看護ステーション リハビリテーション部 部長 理学療法士 (愛知県)

「成人在宅医が小児在宅をはじめするためにしたこと」

市橋 亮一 医療法人かがやき 理事長・総合在宅医療クリニック 院長 (岐阜県)

「重度の乳幼児から高齢者までの在宅生活を支える～ナーシングデイの取組みから～」

野崎 加世子 岐阜県看護協会立ナーシングデイ高山 管理者 (岐阜県)

16:15～16:55 **総合討論**

16:55～17:00 **閉会あいさつ**

※本研究会は第8回岐阜県小児在宅医療研究会を兼ねて開催します。

お問合せ
(事務局)

岐阜県健康福祉部医療福祉連携推進課 障がい児者医療推進係
〒500-8570 岐阜市数田南2-1-1 TEL(058)272-8279 FAX(058)278-2871

